



## 2024年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月9日

上場会社名 株式会社あさくま 上場取引所 東  
コード番号 7678 URL <https://www.asakuma.co.jp>  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)廣田 陽一  
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)西尾 すみ子 (TEL)052(800)7781  
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年1月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期第3四半期	5,411	19.3	150	—	159	—	98	—
2023年3月期第3四半期	4,535	11.1	0	—	△27	—	△83	—

(注) 包括利益 2024年1月期第3四半期 98百万円 (—%) 2023年3月期第3四半期 △83百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年1月期第3四半期	円 銭 18.53	円 銭 18.53
2023年3月期第3四半期	△15.75	—

(注) 当社は2023年6月29日に開催された第50期定時株主総会で、「定款一部変更の件」が承認されたことを受けて、2024年1月期より決算日を3月31日から1月31日に変更いたしました。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年1月期第3四半期	百万円 3,678	百万円 2,470	% 67.2
2023年3月期	3,307	2,372	71.7

(参考) 自己資本 2024年1月期第3四半期 2,470百万円 2023年3月期 2,372百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年1月期	—	0.00	—	—	—
2024年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年1月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,096	—	174	—	179	—	106	—	19.95

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2023年6月29日に開催された第50期定時株主総会で、「定款一部変更の件」が承認されたことを受けて、2024年1月期より決算日を3月31日から1月31日までの10ヶ月決算となっております。このため通期については対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年1月期3Q	5,384,070株	2023年3月期	5,384,070株
2024年1月期3Q	70,629株	2023年3月期	70,629株
2024年1月期3Q	5,313,441株	2023年3月期3Q	5,314,298株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループの取組みといたしましては、新型コロナウイルス禍において経費削減を行う中で、生産性向上を進めてまいりました。目指す姿としては、店舗人員を少なくしながらも、お客様から「サービスが良くなったね」と言って頂くことです。しかし、そのためのトレーニングが追いついておらず、店舗のQSC(商品品質・接客サービス・清潔さ)についてのクレームを多く頂くようになってしまいました。これが来店客数の戻りが悪い原因の1つではないかと考え、クレームの改善と、サラダバーの充実に注力してまいりました。新たな取組みとしまして、商品品質につきましては、店舗に調理動画マニュアルを作成し、視聴していないと回答できない問題を用意し試験を行い、さらに実際に調理してみる実地試験を行う事で、全店で同じ品質の商品を提供できるように取り組みました。調理トレーニングと試験も月1回のエリア会議時だけではなく、新たに注力店舗を決めて、商品課とエリアマネージャー、店长、ふかかちさん(パート社員)を集めて行い、調理技術のチェックと向上、調理方法、マニュアルの見直しなどを行いました。課題としましては、調理スタッフすべての技術を上げる事、生産性を上げる事であります。そのために、今後も店长だけでなく、ふかかちさん(パート社員)も集合教育を行いレベルアップしてまいります。また、マニュアルを実際に使いながらトレーニングを行う事で、だれが見ても同じ商品が作れるようにし、全店での商品品質の標準化を目指してまいります。サービスにつきましては、引き続き、タイムスケジュールのチェックを行い、適正な人員配置を行ってまいります。サラダバーの補充やお済みの食器類の引き揚げ(パッシング)を最優先事項として取り組むことで、「お客様を待たせない」、「不満足を与えない」を目指して取り組んでおります。そのための行動指標として「1way4job(一つの流れの中で4つの事を行う)」を掲げ取り組んでおりますが、注文を取りに行った後にパッシングを行う事は比較的できるようになってきてはいるものの、サラダバーの補充や清掃までは、まだまだ徹底ができておらず、3分の1ほどの店舗では十分とは言えません。徹底して実行し続ける事は難しいものの、継続して取り組んでまいります。

サラダバーの充実にしましては、「お客様をびっくりさせる」をテーマに2023年2月より25品目から45品目にアイテム数を増やし、現在では50店舗にて提供しております。“モツ煮込み”“野菜のトマト煮込み”“白菜のクリーム煮”“麻婆豆腐”などの温かいメニュー「ホットバー」を提供する店舗も、現在22店舗にて展開しており今後も実施店舗と提供品目を増やしていき、お客様にびっくりしてもらえるサラダバーを目指してまいります。課題としましては、ホットバーを提供する事で、今までの調理工程の少ない野菜類と違い、お客様の喜びの声もたくさん頂いておりますが、一方で、今日のは味が薄い、油っぽいなどの商品の品質に対しての声も少し頂いております。また、品目を増やしていくのも、作業工程が増えることで、補充ができなく、ピーク時に欠品してしまうこともあります。今後はホットバーにおいても、毎月の調理トレーニング、試験、マニュアルの更新や調理工程の見直し、短縮化も行い、一定の品質の商品を提供できるようにし、不満足の声を頂かないように取り組んでまいります。当期におきましては、お客様の流れが劇的に増えてきた今だからこそ、食材コストをかけてでも、お客様にびっくりしてもらおう、喜んでもらうお店作りを行ってまいります。

商品の施策としては、“平日ランチ限定”のもりもりハンバーグシリーズの内容を第4弾とし一新しました。茄子やキノコなど季節の野菜をハンバーグが隠れるくらい、もりもりに盛り付け、サラダバー付で税別1,480円の商品になります。また、秋のフェアとして、“もろみそステーキ”や“きのこガーリックステーキ”、好評頂いている“和牛のハンバーグ”の販売、冬のフェアとして、北海道オホーツク産ホタテを使ったメニューを3種類開発し、人気のサーロインステーキ、あさくまハンバーグとセットにし、注文しやすい商品構成にしました。この結果、通常のフェアと比べ注文率は倍近くに増えました。また、クリスマス&肉の日感謝限定メニューとして、いつもの1ポンドステーキ、シェアステーキだけでなく、テンドーロインステーキも提供し、さらに、値段そのまま、天然ホタテフライをセットにした商品の販売を行いました。こちらも好評で、いつもの注文率の2倍という結果になりました。また毎年恒例の福袋については、例年のものよりさらにお得にし6,000円以上の商品やお食事券などを入れたものを3,500円で販売しました。その結果、販売数が昨年と比べ130%以上となり、年内に販売終了する店舗も出てまいりました。

出店に関しましては、2023年11月10日に3期ぶりとなる出店を岐阜県関市に行いました。同市には25年ぶりの再出店となります。店舗は147坪128席で、半個室や座敷席もあり、会食から宴会まで様々な用途でご利用できる店舗となります。この店舗では、今進めている取組みであるサラダバー45品、ホットバー5品を提供しています。オープンから予想を超えるお客様にご来店頂き、全62店舗中、1カ月の売上が2位という結果でした。今後も出店を進めていき、2024年2月に愛知県春日井市に出店予定となっております。

採用と教育については、今後の課題になる人材採用をクリアすべく、積極的な外国人の採用と教育を行ってまいります。まず初めに、2023年10月にベトナム人のインターン生を10人受け入れました。受け入れたインターン生はすぐに店舗へ配置するのではなく、2週間の集合研修を行い、日本での生活についての基本事項から、店舗における基本的な用語を覚えること、バッシングや、新規の案内、サラダバーの仕込みなど基本業務まで、現場において即戦力となるよう、できるようになるまで繰り返しトレーニングを行いました。その結果、店舗において、即戦力として活躍し、2か月足らずで、一通りの店舗業務ができる人も出てまいりました。今後も目標を決め継続してトレーニングを行っていくことで、早期に店長ができる人材に育つものと考えております。課題としては、どれだけトレーニングしたかどうかで、出来ることの差が開いているので、トレーニングの進捗管理やフォローを行うことで、全体の底上げができればと考えております。今後も外国人採用と教育を積極的に行い、今のインターン生10人だけではなく、来期中にさらに20人の特定技能外食人材を受入れ、30人体制とし、店舗責任者としての教育と抜擢を行ってまいります。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高が5,411,512千円（前年同四半期比19.3%増）、営業利益が150,716千円（前年同四半期比94019.2%）、経常利益が159,751千円（前年同四半期は経常損失27,036千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益が98,475千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失83,684千円）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間末現在における当社の店舗数は、直営店舗が1店舗増加したため、直営店62店舗にF C店4店舗を加えて66店舗、株式会社あさくまサクセッションの直営店は9店舗で、当社グループの総店舗数は75店舗（F C店4店舗を含む）となっております。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて306,280千円増加し、2,496,180千円となりました。主な要因は現金及び預金で192,884千円、売掛金で144,708千円それぞれ増加したこと、未収入金で80,351千円減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて65,397千円増加し、1,182,522千円となりました。主な要因は有形固定資産で64,373千円増加したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて371,678千円増加し、3,678,703千円となりました。

### （負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて283,780千円増加し、1,025,573千円となりました。主な要因は買掛金169,451千円、未払法人税で44,733千円それぞれ増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて10,578千円減少し、182,364千円となりました。主な要因は長期借入金で9,728千円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて273,202千円増加し、1,207,937千円となりました。

### （純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて98,475千円増加し、2,470,766千円となりました。主な要因は利益剰余金で98,475千円増加したことによります。

この結果、総資産は前連結会計年度末より10.1%増加し3,678,703千円、負債は前連結会計年度末より22.6%増加し1,207,937千円、純資産は前連結会計年度末より4.0%増加し2,470,766千円となり、自己資本比率は67.2%（前連結会計年度末は71.7%）となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年1月期の連結業績予想については、2023年5月30日の「決算期（事業年度の末日）の変更に伴う業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、今後の進捗により、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,732,842	1,925,726
売掛金	259,979	404,688
原材料及び貯蔵品	43,392	87,056
未収入金	117,290	36,939
その他	36,395	41,769
流動資産合計	2,189,900	2,496,180
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	380,094	420,447
その他(純額)	163,791	187,811
有形固定資産合計	543,885	608,259
無形固定資産		
その他	30,505	28,454
無形固定資産合計	30,505	28,454
投資その他の資産		
破産更生債権等	812,892	812,892
差入保証金	464,971	475,735
その他	77,762	70,073
貸倒引当金	△812,892	△812,892
投資その他の資産合計	542,733	545,808
固定資産合計	1,117,124	1,182,522
資産合計	3,307,025	3,678,703

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	376,817	546,268
1年内返済予定の長期借入金	12,688	14,592
未払法人税等	15,158	59,891
賞与引当金	15,961	13,979
株主優待引当金	19,303	6,746
その他	301,863	384,094
流動負債合計	741,792	1,025,573
固定負債		
長期借入金	92,512	82,784
資産除去債務	78,230	77,380
その他	22,200	22,200
固定負債合計	192,942	182,364
負債合計	934,734	1,207,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	91,531	91,531
資本剰余金	1,711,770	1,711,770
利益剰余金	675,417	773,893
自己株式	△106,429	△106,429
株主資本合計	2,372,290	2,470,766
純資産合計	2,372,290	2,470,766
負債純資産合計	3,307,025	3,678,703

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	4,535,236	5,411,512
売上原価	1,857,271	2,277,801
売上総利益	2,677,964	3,133,711
販売費及び一般管理費	2,677,804	2,982,994
営業利益	160	150,716
営業外収益		
受取利息及び配当金	14	12
不動産賃貸料	2,404	2,404
受取保険金	—	4,780
助成金収入	2,579	—
その他	8,991	4,195
営業外収益合計	13,989	11,394
営業外費用		
支払利息	2,415	1,233
助成金減額損	37,942	—
その他	827	1,125
営業外費用合計	41,186	2,359
経常利益又は経常損失(△)	△27,036	159,751
特別利益		
圧縮未決算特別勘定戻入額	13,499	—
特別利益合計	13,499	—
特別損失		
店舗閉鎖損失	9,900	—
その他	2,800	—
特別損失合計	12,700	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△26,236	159,751
法人税、住民税及び事業税	22,446	57,342
法人税等調整額	35,001	3,933
法人税等合計	57,447	61,275
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△83,684	98,475
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△83,684	98,475



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△83,684	98,475
四半期包括利益	△83,684	98,475
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△83,684	98,475

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

親会社による当社株式の追加取得

当社の親会社である株式会社テンポスホールディングスが2024年1月31日付で公表した「連結子会社株式の追加取得に関するお知らせ」のとおり、当社普通株式の追加取得を行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 親会社の当該株式の取得理由

当社の親会社である株式会社テンポスホールディングスは、当社の発行済株式数の50.33%を所有し、連結子会社としております。今般の追加取得は、当社の被支配株主からの株式売却の意向を受け行ったものです。

2. 親会社の取得株式数、取得価格及び異動前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数 2,710,213 株 (50.33%)

(2) 取得株式数 592,700 株 (11.00%)

(3) 異動後の所有株式数 3,302,913株 (61.34%)

※追加取得した当社株式の取得価格等については、親会社並びに当該被支配株主間の株式譲渡契約の定めにより、守秘義務があることから非開示としております。

3. 親会社の株式取得日

2024年1月31日